



**第356号**  
 編集責任 筑波大学新聞 編集委員会  
 TEL・FAX 029(853)6699  
 E-mail shinbun@un.tsukuba.ac.jp  
 月刊  
 発行所 筑波大学  
 茨城県つくば市 天王台1-1-1

# 全学群生に1万5000円給付

## 新型コロナウイルス 7億円規模の経済支援

筑波大は新型コロナウイルス対策として、全ての学群生に1万5000円を給付するなどの緊急経済支援を実施する。学生宿舎やアパートなど実家を離れて生活する学群生には1万5000円を上乗せして給付。大学院生や留学生、既に卒業・修了した一部の元留学生なども支援する方針で、支援額は総額7億円に達する見込みだ。(西村大祐 人文文学類3年、大和祐菜 理工学類2年)

- 緊急経済支援の骨子**
- 学群生**
    - 全員に1万5000円を給付
    - 一人暮らし学生には追加で1万5000円を給付
  - 一部の留学生や元留学生**
    - 対象者には12万円を給付
  - 全学生**
    - 希望者には無利子で貸付
- (筑波大の資料などから作成)

緊急支援は、保護者からの仕送りの減少やアルバイト先の休業による収入減、オンライン授業に対応するための支出増加など、学生が経済的に苦しい状況にあることから決めた。一律1万5000円の給付は当面3カ月程度分の支援で、休学中を含む全ての学群正規生約98000人が対象となる。実家を離れて暮らす学群生への上乗せ支援は日本人に限る。6月を境に給付し、返還の必要はない。学生は学習管理システム「manaba」で振込先の金融機関の口座を登録する。更に、これまで授業料が免除されていた一部の私費留学生や、今年3月に筑波大を卒業・修了したが帰国できずに日本滞在を余儀なくされている元留学生に対しても、返還不要な支援金を12万円給付する。約7000人いる大学院生に対しては、研究補助業務(RA)や教育補助業務

# 春学期 オンラインで授業実施

## 学生に機器貸し出しも

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、筑波大は春学期の授業をオンラインで実施している。春休みで帰省した学生などに対しては、実家などそのまゝの場所での学習を求め、オンライン授業に必要な機器や通信環境が整わない学生への支援も進めている。(北川瑠菜 比較文化学類2年、西村大祐、2面に関連記事)

オンライン授業は、動画と音声が中心となっている。通信機器や通信環境がない学生は、オンライン授業を受けることができない可能性がある。通信機器や通信環境がない学生は、オンライン授業を受けることができない可能性がある。通信機器や通信環境がない学生は、オンライン授業を受けることができない可能性がある。

では、教員が講義の音声ファイルを学習管理システム「manaba」にアップロードし、講義動画を「Stream」などに公開したりしたものを学生が受講する。ゼミや講義、討論など双方向型の授業は、オンライン会議システムの「Teams」や「Zoom」など

を活用して行う。実験や実習は、新型コロナウイルスの感染拡大の動向を見ながら、秋学期や集中講義など時期を調整した上で、実施する方針だ。4月16日に茨城県が「特定警戒都道府県」に指定されたことを受け、学生の入構は禁止となった。ただし、生き物の世話や液体窒素の補充が必要など途中でも中止できない実験を担当する大学院生や、卒業論文に取り組む学群生は、計画書を提出し、認可された場合に限り入構が認められる。

稲垣敏之副学長(総務・人事担当)はオンライン授業について、広報担当として4月23日の定例会で説明する際に「教員と学生とのディスカッションなど、これまで授業にあまり取り入れてこなかったものを導入するきっかけになる」と話した。全学群生を対象にした筑波大の調査では、新入生64人、在学189人がオンライン授業の受講に必要なパソコンやタブレット端末を持っていないかった。希望者には中古のノートパソコンを無償で貸し出す。また、WiFi(無線LAN)のモバイルルーターについては、需要の高まりもあり、大学側が確保できたのは200台にとどまった。優先順位が高い学群生約50人には先行する形で通信費も含めて無償で機器を貸し出した。

「おことわり」  
 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今号は特別態勢となり、8面構成で発行しました。感染予防のため、対面取材を避け、電子メールや電話、ビデオ通話などを活用しました。「反射鏡」芸術の森「おことわり」

### 感染拡大の影響は 宿舎入居にも……



平砂宿舎エリアで4月3日、大和祐菜撮影  
 例年、全国から新入生が集まる学生宿舎。感染拡大を受け、入居日でも新入生の姿はまばらだった。(西村大祐)

寄付金は5月末まで以下のウェブサイト(https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/covid19/)で受け付けている。筑波大は筑波大学基金などで約4億円の財源を確保したが、まだ3億分が不足しており、教職員や卒業生、企業などに寄付を呼びかけている。同基金を通じて一般からも寄付を募っており、クラウドファンディングでも受け付けている。財務企画課の担当者によると、現時点では来年度以降に授業料などを値上げする予定はないという。永田恭介学長はウェブサイトで「これからの我が国を支える人材である学生

「決定過程説明を」  
 山口教授 五輪延期を語る  
 日本オリンピック委員会(JOC)理事の山口香教授(体育系)が本紙の単独取材に応じ、今年7、8月に開催予定だった東京五輪の延期問題や五輪の意義などについて語った。山口教授は「五輪に関する多くの決定はアスリートが最優先で考慮して行われるべきだ」と思う。更に決定に至ったプロセスを明らかにし、選手に納得してもらうことが大切だ」と話した。(加藤優花 国際総合学類3年、7面に関連記事)

「訂正」  
 4月27日の記事で、「新入生の学生宿舎入居は予定通り4月3、4日となった」とありますが、筑波大の方針転換で、例年通りの一斉入居は見送られました。訂正します。

「おことわり」  
 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今号は特別態勢となり、8面構成で発行しました。感染予防のため、対面取材を避け、電子メールや電話、ビデオ通話などを活用しました。「反射鏡」芸術の森「おことわり」

**注目記事**

- 2 宿舎祭 感染拡大受け開催断念
- 3 つくば市 自動車盗難被害日本一
- 7 東京五輪 山口教授に課題を聞く
- 8 新型コロナウイルスが脅かす学生生活
- 8 オンライン新歓祭 74団体参加

**ミニ特集**

筑波大教員に聞く 読んでほしい一冊 **5**

おことわり

今号は8面構成で発行しました。

**筑波お話し**

劇作家の鴻上尚史さんはある時、沖縄の先の、南の島を一人旅した。島に着いて8日目、観光地も一通り巡り、やることもなく海を眺めている時に突然「自分は、そもそも、その仕事が大嫌いなんだ」と気づいた。「本当の孤独」を体験することで「自分の一番深い部分」と本音で対話できる▼鴻上さんは「孤独と不安のレッスン」(たけい文庫)でそう綴る。愛媛に住む高3の弟からの連絡で、この話を思い出した。新型コロナウイルスの緊急事態宣言で高校は休校し、部屋に籠もる日々が続く。「授業も大幅に遅れ、受験はもうなるんやらか」。悩みの相談だった。「一人だからこえ気づくことがあるかも」と助言した▼5月に入り、弟にその話を聞いた。生活リズムを崩し、勉強にもなかなか身が入らない。そんな自分を愛さようと、日々ノルマを決めて勉強勉強に励んでいるらしい▼宣言に伴う外出自粛効果などで、新規感染者数の発生は緩やかとなった。宣言の対象範囲は段階的に縮小されている。だが、第2波、第3波の流行襲来を考えると、今後多くの国民が自粛を求められるだろう▼孤独は寂しい、負の印象がある。でもそれは、自分が周りに流されていること(か)でもありはしまいか。鴻上氏は「不安と孤独をちゃんと生きるのは、なかなか面白い」という。認識を変えれば見えるものがある。



# 「軍事研究には当たらない」

## 永田学長 藤田教授の安全保障研究



定例会記者会見で記者の質問に答える永田恭介学長(3月26日、特別会議室で) = 遠子内早紀撮影

防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」で筑波大の藤田淳一教授(数物系)が研究代表を務める研究課題が採択されたことを受け、永田恭介学長は3月26日の定例会記者会見で軍事研究に関する見解を示した。「防衛のための研究は軍事研究には当たらない」とし、採択された研究は防衛目的のためのものでなく、軍事研究には全く当たらないと説明した。

永田学長は会見で軍事研究の定義を問われ、「相手国の領土や国民を侵すことにつながるものやアタッキング(攻撃)するもの」と答えた。

### 大学と軍事研究

永田学長は会見で軍事研究の定義を問われ、「相手国の領土や国民を侵すことにつながるものやアタッキング(攻撃)するもの」と答えた。

筑波大は2018年12月、「軍事研究をしない」

基本方針を決定。筑波大で行われる研究は①人道に反しない②研究者の自主性・自律性を尊重する③研究の公開性を担保する――の3点を満たす必要がある。軍事研究とみなされる可能性が高い研究は学内の審査委員会が個別に判断するとしていた。

今回の申請もこれに従い審査された。だが、永田学長は委員会の構成について「委員の教員に圧力がかけられないため、現段階で公開できない」とし、外部有識者の参加の有無についても回答を控えた。公開しても問題がなくなった時点で公開する方針だという。

永田学長は国立大学協会

長を務めており、会見では今回の採択が他の国立大学に影響を及ぼすのではないかと質問も出た。永田学長は「国大協は教育・研究の高度化を目指し、協議・協力する団体だ。他大学への影響は全くないと考えている」と述べた。

また、定例会記者会見では、筑波大が17年4月から昨年1月まで、同制度への申請を認めない方針だったことも明らかにされた。18年度は筑波大の研究資金情報サイト「RISS」で申請を認めないことを教員に周知した。17年度はRISSで同制度の公募情報について紹介せず、申請があっても認めない方針だったという。

木越英夫副学長(研究担当)は会見で「それまで学内に判断基準がなく、軍事研究がどうか判断できなかったため、申請しないよう求めていた」と語った。

筑波大附属病院は新型コロナウイルス対策として、3月5日から電話での診察を始めた。院内へのウイルス持ち込みやそれによる院内感染を防ぐとともに、通院による患者の市中感染リスクを減らす狙いがある。

附属病院は県内唯一の特

者24時間体制で受け入れられる県内初の高度救急救命センターにも指定された。院内感染による機能喪失が生じれば、地域医療にとって大きな痛手となる。

電話診察の対象は、附属病院に定期的に通院し、次の予約がある再診患者、疾患の症状が現時点で重症化していること、程度落ちていること、条件となる。附属病院には1日約2000人の患者が来院する。その約2〜3割がこれらの条件を満たすと

いう。ただ、電話診察は任意で、希望しない場合は通常通りの診療となる。

診察後は患者の希望した薬局に処方箋をファックス

### 春学期 共通「体育」の授業概要

#### オンライン授業

- ・1回あたり約30~40分程度
- ・講義や実技動画が中心(内容は全学年同一)
- ・授業内容に関する課題をmanabaに提出

#### Tsukutai Exercise

- ・1回あたり約5分程度(春学期に7回実施)
- ・屋内でできる運動を紹介

(筑波大への取材を基に作成)

「1面参照」筑波大は春学期開設の共通科目「体育」の授業をオンデマンド方式で実施中だ。体育センター長の白木仁教授(体育系)は「オンデマンド授業では体を動かすという本来の目的を達成できないが、運動の意味や楽しさを深く知ってもらう機会にしたい」と話している。

オンデマンド授業となった「体育」は、標準履修年次が1年の「基礎体育」、2年の「応用体育」、3年の「発展体育」。受講者は履修年次を問わず全員が同じ授業を受ける。

授業は毎週月曜日に「stream」で公開され、受講者は動画視聴後に授業内容に関連したレポート課題を学習管理システム「manaba」に提出する。

9回のオンデマンド授業は1回あたり約30~40分。ガイダンス(1回)、講義(3回)、実技動画(4回)、各

当初は対面授業の解禁後に、土曜祝日と夏季休業を利用して授業をする予定だったが、他の集中講義との重複や9月卒業の学生に対応しきれない可能性を踏まえ、春学期にオンデ

オンデマンド授業は、大学側から要請を受けた体育センターの教員が協議して決めた。

「Tsukutai Exercise」がある。5分程度で、動画に合わせて受講者がその場で運動できる。

新型コロナウイルスの感染拡大で、筑波大の恒例行事も相次いで中止や延期に追い込まれている。第46回筑波大学宿舎祭実行委員会

は4月10日、「第46回宿舎祭(よどかり祭)」の開催を断念すると発表した。3月31日にはスポーツ・デー学生委員会が第44回春季スポーツ・デーの中止を決めた。11月に予定されていた第46回筑波大学学園祭(雙峰祭)は、当初日程での開催見送りが検討されている。

宿舎祭は当初、5月29、30日の開催を予定し、昨年10月から準備が進められてきた。

大学側は3月中旬、新型コロナウイルスの感染拡大防止

に伴い、開催中止を実行委員会に要請。これに対し、実行委員は、開催日の延期を前提に規模を縮小する形での開催を模索していた。

観点から春学期中の開催は避けるべき▽授業がオンラインで行われ、大学周辺に居住する新生が少なく、▽秋学期の開催になると、祭に必要な物品の借用が難しい――などの理由から開催断念の結論に至った。

宿舎祭実行委員会の品川知輝委員長(人文3年)は「今年度に開催できないのは悔しいが、来年度の開催に向けて実行委員一

方で、11月14、15日に開催予定の第44回秋季スポーツ・デーは、予定通りの開催を目指し「スポーツ・デー」を目標に「スポーツ・デー」学生委員会が企画や新入生委員の受け入れ態勢の準備を進めている。

学生委員会の寺嶋仁志委員長(数学3年)は「秋学期が開催できれば、多くの人に参加してもらい、自粛期間中にたまったストレスを発散してほしい」と話した。

11月6〜8日に開催予定だった雙峰祭は、関係者によると当初の日程での開催は見送られる見通しだ。開催日程については春学期中に決める。現在は、日程を

### 新型コロナ

# 「体育」オンデマンドで

## 自宅でもできる運動を紹介

種目の解説(1回)からなる。実技動画では、トレーニングやエクササイズの方法を紹介する。また、9回のうち7回は授業後に屋内でできる運動を紹介する。

「基礎体育」では通常、

白木教授は「異なる特性

のスポーツに接してもら

同、精一杯力を尽くしてい

く。興味がある新入生は今

後力を貸してほしい」と

語った。

春学期と秋学期で異なる種目を履修するが、今年度は時間が十分になく、撮影や機器の扱いなど教員の負担も考慮し、全学年で同一の授業とした。

「基礎体育」では通常、

白木教授は「異なる特性

のスポーツに接してもら

同、精一杯力を尽くしてい

く。興味がある新入生は今

後力を貸してほしい」と

## 宿舎祭も開催断念

### 雙峰祭は延期で調整

### 筑波大の新型コロナウイルス感染症への対応

2月	25日	課外活動団体にイベントや集会の中止・延期の検討を要請
	28日	課外活動団体にイベント・集会・合宿などの2週間の中止・延期を要請
3月	12日	2020年度の入学式中止決定。課外活動の自粛期間を春学期授業開始日まで延長
	13日	課外活動団体会議が所属する全団体への新入生歓迎活動の全面的な自粛を要請
	26日	20年度の学年暦を改正。春学期授業開始は4月27日に
4月	3日	文化系サークル会館や体育系サークル会館、開学記念館など課外活動施設への立ち入りを禁止
	9日	佐藤忍副学長(学生担当)が課外活動の全面自粛を要請
	17日	政府の緊急事態宣言の対象地域拡大を受け、授業はオンラインのみとし、学生の入構は原則禁止とすることを通知
	24日	7、8月に実施予定だった大学院入試について延期を検討していると表明
5月	1日	課外活動の自粛期間を「当面の間」に延長
	15日	緊急事態宣言を受けた対応の当面継続を通知

(筑波大の発表から作成)

## 附属病院 電話診察開始

### 院内感染防止で

筑波大附属病院は新型コロナウイルス対策として、3月5日から電話での診察を始めた。院内へのウイルス持ち込みやそれによる院内感染を防ぐとともに、通院による患者の市中感染リスクを減らす狙いがある。

附属病院は県内唯一の特

者24時間体制で受け入れられる県内初の高度救急救命センターにも指定された。院内感染による機能喪失が生じれば、地域医療にとって大きな痛手となる。

電話診察の対象は、附属病院に定期的に通院し、次の予約がある再診患者、疾患の症状が現時点で重症化していること、程度落ちていること、条件となる。附属病院には1日約2000人の患者が来院する。その約2〜3割がこれらの条件を満たすと

いう。ただ、電話診察は任意で、希望しない場合は通常通りの診療となる。

診察後は患者の希望した薬局に処方箋をファックス

### 事務職員 懲戒解雇

#### 190万円不正受給

で送り、原本も郵送する。患者は翌日以降に薬局で薬を受け取る。処方箋の送付料(1000円)と診察料は次の来院時に支払う。

開始当初の電話診察の受診者は1日10〜20人程度だったが、4月下旬には同270〜300人程度に増えたという。

附属病院総務課の担当者によれば、「病院に行くのが心配だったので、電話診療はとても助かる。など、患者からは好意的な意見が多く寄せられているという。

三沼仁一病院総務部長は4月23日の定例会記者会見で「遠隔地から通院している患者から、非常に便利だ」という声が上がっている」との反響を紹介した。

附属病院は「現在は通常の重症患者への対応を最優先している。市中感染の拡大と医療崩壊を抑制するた

る。」(西村大祐)

電話診察の申し込みは附属病院のウェブサイトに(https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/taimed/)受け付けている。インターネットに慣れない人には、附属病院の事務が患者からの情報を基に申し込みを代行する。(西村大祐)

電話診察の申し込みは附属病院のウェブサイトに(https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/taimed/)受け付けている。インターネットに慣れない人には、附属病院の事務が患者からの情報を基に申し込みを代行する。(西村大祐)

電話診察の申し込みは附属病院のウェブサイトに(https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/taimed/)受け付けている。インターネットに慣れない人には、附属病院の事務が患者からの情報を基に申し込みを代行する。(西村大祐)

電話診察の申し込みは附属病院のウェブサイトに(https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/taimed/)受け付けている。インターネットに慣れない人には、附属病院の事務が患者からの情報を基に申し込みを代行する。(西村大祐)

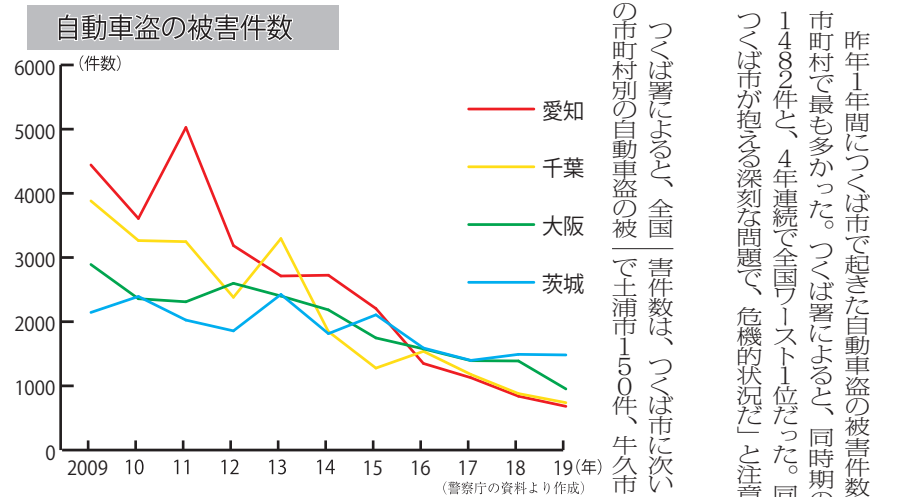
電話診察の申し込みは附属病院のウェブサイトに(https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/taimed/)受け付けている。インターネットに慣れない人には、附属病院の事務が患者からの情報を基に申し込みを代行する。(西村大祐)

電話診察の申し込みは附属病院のウェブサイトに(https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/taimed/)受け付けている。インターネットに慣れない人には、附属病院の事務が患者からの情報を基に申し込みを代行する。(西村大祐)



# つくば市 自動車盗最多

## 茨城県も4年連続でワースト



つくば署によると、全国「事件数は、つくば市に次いで市町村別の自動車盗の被害件数は、つくば市に次いで茨城県全体の被害件数は1482件と、4年連続で全国ワースト1位だった。同署の担当者は「自動車盗はつくば市を抱える深刻な問題で、危機的状況だ」と注意を呼び掛けている。

(森賀遼太II社会学類4年)

茨城県の自動車盗の被害件数は、つくば市に次いで茨城県全体の被害件数は1482件と、4年連続で全国ワースト1位だった。同署の担当者は「自動車盗はつくば市を抱える深刻な問題で、危機的状況だ」と注意を呼び掛けている。

警察庁の資料によると、昨年の自動車盗の被害件数は全国で7143件。最多の茨城県は、ワースト2の大府(952件)より500件以上多い。全国の自動車盗の約2割が茨城県での被害となっている。2019年までの5年間で、県内の自動車盗の被害件数は減少傾向にあり、15年の2107件と比べると、約3割減少した。一方、全国の被害件数は15年の13821件から5年間でほぼ半減している。

# 法改正で「SOGI+ハラ」防止

## 大阪府立大は指針策定

本紙は2018年から、性的少数者を取り巻く社会の現状や課題に迫る「Think LGBT+」を連載してきた。今年度からは新たに「性の多様性 SOGI+」を始めた。性の多様性を理解し、誰もが共生できる社会を目指して情報を発信する。今回は性的指向(好きになる性)と性自認(自分が思う自分の性別)を指す「SOGI+」という言葉について、全国の大学の中でも性的少数者に関する先進的な取り組みを進める大阪府立大の活動を交えながら紹介したい。

(後藤佳佳II社会学類3年)



SOGI+は、Sexual Orientation (性的指向)とGender Identity (性自認)の英語の頭文字をとった言葉で、異性愛の人も含め全ての人が持っている性的指向・性自認の属性のことを意味する。一方、LGBT+は、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった言葉で、性的少数者自体のことを示す。

今年6月、職場でのパワハラ防止措置を企業などに義務付けた改正労働施策総合推進法(パワハラ防止法)が施行された。これに先立ち、何がパ



東優子教授

大阪府立大は17年に「大阪府立大学SOGI+の多様な学生生活に関するガイドライン」を策定した。人権を重んじ、性的指向や性自認を理由とする差別や偏見のない大学を目指す基本理念のもと、▽学生の個別の意思・選択を常に尊重する▽学内外の関係者が連携・協力してガイドラインの実現に向け取り組む▽学生生活全般に関して合理的配慮を図るなどの七つの基本方針を設定。18年には、学生だけでなく教職員も対象に含めるため、「大阪府立大学SOGI+の多様な性に関するガイドライン」を発表した。

このガイドラインでは、性的少数者への差別は人権差別と同様の人権問題であることを重視し、「誰」を強調するLGBT+ではなく、「何を理由とする差別・偏見なのかを焦点化するSOGI+を用いた。」

府立大ではどのような取り組みをしているのか

# 工シス・情科も実施

## 土曜授業 学年暦改正を受け

工学システム学類と情報科学類は、3月26日に改正された学年暦通りに授業をする形での全学類・専門学群の足並みがそろった。

工学システム学類長の文字秀明教授(シス情系)は「授業開始が4月27日となった。土曜授業を実施せずに授業時間を確保するに

# 献血者減少が深刻

## 赤十字 協力呼びかけ

茨城県で献血者が減少している。新型コロナウイルスの感染拡大の影響だ。茨城県赤十字血液センターによると、県内の4月1日から5月9日までの移動献血の献血者数は目標を495人下回る436人だった。同センターは「献血は不要不急の外出には当たらない。輸血を必要としている患者は常にいる。継続的な協力をお願いしたい」と訴えている。(大和祐菜)

府立大では、更衣室内に仕切りを設置するといった「合理的配慮」の提供はもちろんだこと、啓発ポスターの製作や講演会・研修などを実施している。

日本の大学でSOGI+の多様性への理解を高めるために必要なのは「私たちのことを私たちが抜きで決めるな」という考え方を大前提に、日ごろか

# 芸サ連サークル 自粛続く

## オンラインで新歓活動

芸サ連は当初、4月12日に「芸術系サークル連合会合同新歓」の実施を計画。29団体が参加し、ステージ発表とブース設置による新歓活動を行う予定だった。だが、大学側の活動自粛要請を受け、中止となった。

また、2〜5月に予定されていた8団体の計11イベントが中止・延期になった。更に、3団体の3イベントが、無観客ライブなど当初とは異なる形式での開催となった。

このため芸サ連は3月27日からツイッターを利用した所属団体の紹介を始め、4月5日からはYouTubeチャンネル「芸サ



献血を受け付けているつくば献血ルーム (5月12日、つくば市吾妻で) = 西村大祐撮影

「おわびと訂正」

3月5号3面の記事で「組織の略称」は「新任人事」の、「新任人事」は「組織の略称」の誤りでした。おわびと訂正します。

約3割に当たる138会場での健康チェックや職員と献血者の手指、使用機器の消毒をしている。更に、献血バスでは、来場者にマスクの着用を求めるとともに、車内の換気や一度に入人数を制限するなどの対策を講じている。

筑波大では5月26日午後0時15分から午後4時まで第三エリア食堂前で献血を受け付ける予定だ。

また、つくば献血ルーム(つくば市吾妻)では年末年始を除き献血を受け付けている。現在は密集予防のため、前日までの予約はつくば献血ルーム(0120-0298-100)まで。



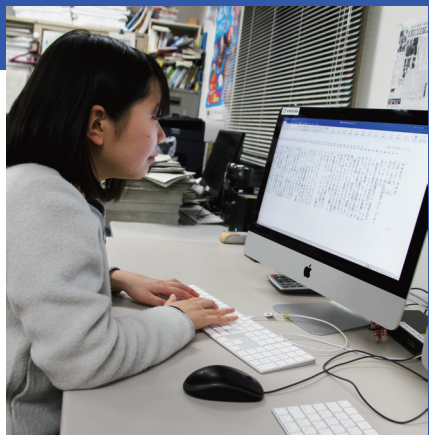
# 新人記者募集中!



INTERVIEW  
聞く



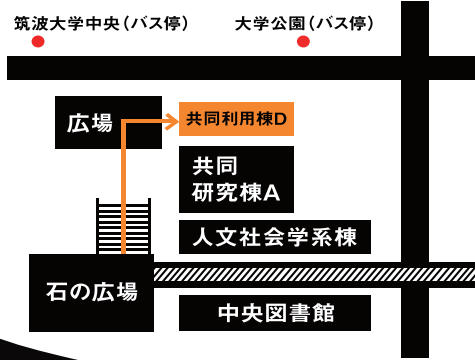
TAKE PICTURES  
撮る



WRITE  
書く

現在は毎週月曜の午後6時30分から、オンライン会議システム「Teams」で「編集会議」を行っています。  
活動内容については筑波大学新聞公式SNSで発信していきます。

TEL : 029-853-6699  
MAIL : shinbun@un.tsukuba.ac.jp  
Twitter : @ut\_shimbun



編集代表  
鴨志田公男

1月に発行した354号  
野でも取材できます。  
ある日の取材相手は、日  
本代表のスポーツ選手かも  
新入生の皆さん、ぜひ、  
筑波大学新聞においでくだ  
さい。(筑波大教授、元毎  
日新聞論説委員)

「新聞」は古くて新しい  
インターネットの発達  
で、誰もがいつでも情報を  
発信し、受け取ることがで  
きる時代となりました。  
でも、その情報はどれほ  
ど信頼できるものでしょう  
か。新型コロナウイルスの  
感染拡大を巡っては、「マ  
スクと原料は同じ」という  
誤情報がSNSで拡散し、  
トイレトペーパーの買い  
占め騒ぎが起きました。  
そんなフェイクニュース  
に踊らされない情報リテラ  
シーを身に着けたいなら、  
そして情報発信能力を身に  
着けたいなら、ぜひとも筑  
波大学新聞の門戸をたたいて  
ほしいと思います。

取材した記者は、学生と  
新電力、さらには国民生活  
センターなど行政機関にも  
話を聞き、記事化しました。  
当事者の主張を鵜呑みにせ  
ず、幅広い取材を重ねるこ  
とで、真実とは何かを見極  
める力が養われます。  
筑波大はノーベル賞受賞  
者もオリンピックのメダリ  
ストも、そして芸術系の作  
家も輩出している稀有な大  
学です。記者は、自分の興  
味や関心に従い、どんな分  
野でも取材できます。

## 「新聞」は古くて新しい



編集長  
西村大祐

では、電力の小売り自由化  
を取り上げました。電気料  
金が安くなること勧誘され  
、東京電力から新電力に契約  
先を乗り換えた筑波大生の  
間で、多額の料金を前払い  
させられるなどのトラブル  
が生じていたからです。  
取材した記者は、学生と  
新電力、さらには国民生活  
センターなど行政機関にも  
話を聞き、記事化しました。  
当事者の主張を鵜呑みにせ  
ず、幅広い取材を重ねるこ  
とで、真実とは何かを見極  
める力が養われます。

誰もが活躍できる編集部  
「新聞なんて書いたこと  
ないし、文章力にも自信  
がない……」。皆さんはそ  
う思われるかもしれません。  
でも、心配はいりませ  
ん。大学に入ってから記者  
になり、記事を書いている  
編集部員がほとんどです。  
は「大学新聞」であると同  
時に「地域紙」としての役  
割を果たしているといえま  
す。また、必要があれば文  
部科学省や防衛装備庁など  
の記者が担当しています。  
筑波大学新聞では、大学  
内の話題や学芸、研究、そ  
他大学などにも「事実を  
求め、取材に行きます。筑  
波大の学長に取材すること  
もありました。英語で取材を  
もありません。  
昨年9月には先進的な大  
学スポーツの取り組みにつ  
いて取材するため、英国に  
渡りました。言語の壁があ  
りながらも、英語で取材を  
か。(人文学類3年



# 『目今』、筑波大生に読んでほしい冊

外出自粛や授業のオンライン化で「おうち時間」が増えている。定額制動画配信サービスを楽しんだり、手の込んだ料理を作ってみたり、家でできるトレーニングを試してみたり……。さまざまな過ごし方の一つとして、本と向きあってみてはどうか。積んでいた本を読むのも、新たに手を伸ばしてみるのも良い。世界が危機的な状況にある今、時間に余裕のある、読んでほしい本を筑波大の教員4人に紹介してもらった。

## 『定本 想像の共同体』

### ナシヨナリズムの起源と流行

ベネディクト・アンダーソン著  
白石隆、白石さや訳  
書籍工房早山

木村周平准教授(人社系)



この状況をどう越え(あるいはやり過)ごい)ど、どのような生き方や社会をつくっていくのか。過去や他の社会の人々の実践や想像

## 現実と仮想現実性の相互作用

互に同じネーション(国民)の一員だという意識をもつようになったのか。ネーションという「私たち」はどのようにリアルなものとして作りあげられたのか。その「私たち」の想像(創造)において、何がインフラの役割を果たしたのか。著者はいつかの要素を挙げて、わくわくするような議論を展開する。中でも注目するのが、新聞や小説などの、出版という当時のメディアを通して生み出される、ローカルな言語空間の共有や、同時性の感覚である。リアルなものとして(時にそのために命を落とすことも厭わぬ)「ネーション」という「私たち」はこうしたヴァーチャルな共有物によって支えられている。

## 『利己的な遺伝子』

リチャード・ドーキンス著  
日高敏隆、岸由二、羽田節子、垂水雄二訳  
紀伊國屋書店

谷口守教授(シス情系)

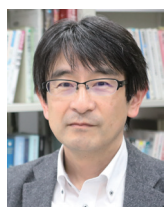


「この専門に関する本」を紹介くださるとの依頼を受けました。私は都市計画の専門家ですが、今回紹介させていたのは生物学。この書籍なので、間違っていると書かれるかもしれませんが、最後までお読みください。

## 『ほんとうのトコロ、認知症ってなに?』

山川みやえ、土岐博、佐藤真一編  
大阪大学出版会

山中克夫准教授(人間系)



私は認知症ケアについて、臨床心理の立場からアプローチしています。専門に関する本を紹介してほしいという依頼でしたが、私が書いた本は現場の経験がない学生の皆さんにはイメージしづらい実学書か、

## 自由な視点から認知症を考察

対する動きかけやその実践を通して考えたことをお話しさせていただきました。それが縁で、この本の執筆に私も加えていただきました。執筆してもらったものです。もう少し具体的に言うと、認知症の人の脳の中で起きていること、認知症と誤解されやすい症状学が専門です。物理学的な発想を日常生活に活用する中で認知症に興味を持たれたそうです。

## 生物の行動操る戦略

サイモン・バロン・コーエン著  
三宅真砂子訳  
NHK出版

森千鶴教授(医学医療系)



今回は、皆様に紹介する本は、『話を聞かない男、地図が読めない女』で衝撃を受け、男女の脳の違いをもう少し理解したいと思うと出会った共感する女脳、システム化する男脳です。

私は、『話を聞かない男、話を聞かない女』(主婦の会学芸出版社)の著者であり、

## 共感とは能力ではなく技能

「共感」は能力ではなく技能、あるいはいくつかの技能を組み合わせることで生まれるものだと考えています。自閉症研究センターの所長で、読んでいただければ分かると思いますが、全ての女性が共感しやすく、全ての男性がシステム化して、構造的な傾向が優位であることを説明しています。また、それぞれの脳の特徴や発達、さらに脳がどのように進化してきたのかも触れており、非常に興味深く読み進めることができます。



# 記者の声



後藤佳伶

2年前の春、筑波大に入学したばかりの私が大学生活で一番楽しみにしていたのは、課外活動だった。高校生の時より、自分の好きなことに打ち込み、学類の勉強とは別のフィールドからさまざまなことを学べるという期待があったからだ。

思った通り、大学新聞での活動は楽しかった。だが、新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた今年2月以降、様相が大きく変わった。4月中旬に入構規

## 新型コロナウイルス 課外活動衰退は大きな損失 学生も逆境に負けぬ知恵を

5月14日に茨城県東の緊急事態宣言は解除されたが、直ちに元通りにはならない。これは危機的な状況だ。課外活動の活発さが失われると、学生の多様性や創造性を育む場

喪失や、学生同士の人間関係を醸成してきたコミュニティの崩壊につながるかねない。筑波大生を対象に本紙が5月5〜10日に実施したアンケートでは、在学生の回答者の半数以上が「新入生を勧誘できず不安だ」と答えた。また、3割以上が「部やサークルが維持

部など類似した部とどう違うかを、対面方式の新歓で伝えていくが、それが難しくなっているからだ。水野さんは「これまでは、部員全員で必死に新歓をし、やっと10人弱の新入生を確保してきた。今年は入部が確定した新入生がまだ一人もいない」と話す。

しかし、課外活動団体は大学にとっても欠かせない存在である。再認識してほしい。課外活動には学生同士のコミュニティを築く役割がある。課外活動で自分の興味分野を探究し、学術研究や就職活動に繋げる学生も多い。課外活動支援は、経済支援や学習支援と並んで、重要なことであるはずだ。

大学は、金銭的・物理的な支援が必要な団体の調査や、新入生への情報提供を促進する仕組みづくりなど、衰退を防ぐための対策を講じてほしい。

もちろん、課外活動を守る中心は、担い手である私たち学生だ。新型コロナウイルスの影響で、社会は今大きく変わろうとしている。互いに知恵を出し合い、工夫を重ね、したたかにそしてしなやかに新しい時代と向き合っていきたい。(筑波大学新聞副編集長・社会学類3年)

# 筑波時評

オンライン授業が始まった。筑波大が、春学期の授業をオンラインで行うことを発表したのは4月1日であり、その時は多くの教員が実現可能性に不安を抱いていた。しかし、関係各位の尽力もあり、大きな混乱もなく授業が開始されたことについては、大学の判断と見識を評価したい。

## オンライン授業 短所も工夫で効果的に 何でできるか見極め重要

高等教育におけるICTや遠隔教育の活用は、これまで進まされてきた。また、大学設置基準等の法令において、遠隔授業の型、学修・授業時間、修得単位の数の上限等も定められてお

り、新型コロナウイルス対応への弾力的運用も通知された。小中学校では、児童生徒一人一台の学習用PCとクラウド活用を前提とした「GIGAスクール構想」が進められており、今回の事態でこれらは改めて注目されたと言え

もちろん、授業だけが大学の役割ではない。実験や観察、図書館等の調査、先生や学生との議論、課外活動や友人との語り、遊びも含めて、全てが学校生活である。だからこそ、オンラインでできることとできないことを見極めた上で、大学でいかにできるかという課題がある。筆者も実際にオンライン授業や会議を経験して、授業や学校生活について考えることが多々あった。学生が目の前になくとも、資料をmanabaにアップして、カメラに向かって話す。学生からのレポートも

manabaを通じて読み、提出状況を管理する。Zoomを使って、個別指導やゼミ、会議に臨む。これらは、予想以上に対面の場合と変わらぬ実践での把握といった課題もある。視野の制約や情報セキュリティといった技術的側面、健康面への

もちろん、授業だけが大学の役割ではない。実験や観察、図書館等の調査、先生や学生との議論、課外活動や友人との語り、遊びも含めて、全てが学校生活である。だからこそ、オンラインでできることとできないことを見極めた上で、大学でいかにできるかという課題がある。筆者も実際にオンライン授業や会議を経験して、授業や学校生活について考えることが多々あった。学生が目の前になくとも、資料をmanabaにアップして、カメラに向かって話す。学生からのレポートも

manabaを通じて読み、提出状況を管理する。Zoomを使って、個別指導やゼミ、会議に臨む。これらは、予想以上に対面の場合と変わらぬ実践での把握といった課題もある。視野の制約やセキュリティといった技術的側面、健康面への

### 樋口 直宏 教授 (教育方法学)



人間系・教授。1995年筑波大学院博士課程教育学研究科単位取得退学。博士(教育学)。立正大准教授などを経て2014年より現職。

オンライン授業には、「いつでもどこでも、何でも」授業ができるというメリットがある。オンデマンド機能を使えば教師も学生も時間に制約されることはいないし、受講者間の調整がつけばリアルタイムで実施できる。場所についても、自宅や移動しながらの利用が可能であり、感染症対策という点では隣室であってもオンラインは有効

もちろん、授業だけが大学の役割ではない。実験や観察、図書館等の調査、先生や学生との議論、課外活動や友人との語り、遊びも含めて、全てが学校生活である。だからこそ、オンラインでできることとできないことを見極めた上で、大学でいかにできるかという課題がある。筆者も実際にオンライン授業や会議を経験して、授業や学校生活について考えることが多々あった。学生が目の前になくとも、資料をmanabaにアップして、カメラに向かって話す。学生からのレポートも

もちろん、授業だけが大学の役割ではない。実験や観察、図書館等の調査、先生や学生との議論、課外活動や友人との語り、遊びも含めて、全てが学校生活である。だからこそ、オンラインでできることとできないことを見極めた上で、大学でいかにできるかという課題がある。筆者も実際にオンライン授業や会議を経験して、授業や学校生活について考えることが多々あった。学生が目の前になくとも、資料をmanabaにアップして、カメラに向かって話す。学生からのレポートも

もちろん、授業だけが大学の役割ではない。実験や観察、図書館等の調査、先生や学生との議論、課外活動や友人との語り、遊びも含めて、全てが学校生活である。だからこそ、オンラインでできることとできないことを見極めた上で、大学でいかにできるかという課題がある。筆者も実際にオンライン授業や会議を経験して、授業や学校生活について考えることが多々あった。学生が目の前になくとも、資料をmanabaにアップして、カメラに向かって話す。学生からのレポートも

もちろん、授業だけが大学の役割ではない。実験や観察、図書館等の調査、先生や学生との議論、課外活動や友人との語り、遊びも含めて、全てが学校生活である。だからこそ、オンラインでできることとできないことを見極めた上で、大学でいかにできるかという課題がある。筆者も実際にオンライン授業や会議を経験して、授業や学校生活について考えることが多々あった。学生が目の前になくとも、資料をmanabaにアップして、カメラに向かって話す。学生からのレポートも

### 私の一本

## 『去年マリエンバートで』 アラン・レネ 監督

時代、名画座と呼ばれた小さな映画館でのリバイバルが公共施設での上映会だけで、過去の映画と出会える時だった。

その頃、日本にはまだ、1960年代に一世を風靡した、前衛小説の潮流「ヌーヴォー・ロマン」の余韻がわずかに残っていた。ミッシェル・ピュートルやアラン・ロバート

映画ではゴダールやアニューエル、実験映画ではスタン・ブラッケイジやケネス・アンガーといった、よりラディカルな作家の作品を観るようになったが、『去年マリエンバート』によって、映像が有する可能性の迷宮への扉が開かれていなかったら、それらに出会うこともなく、また出会っても、あれほど夢中になることはなかったろう。

### 辻 泰明 教授 (映像メディア論)



図書館情報メディア系・教授。東京大文学部卒。博士(情報学)。放送局のディレクター、プロデューサーなどを経て2015年より現職。

その時、すなわち、「時間と空間が織りなす映像の迷宮」が眼前に現れた時の衝撃は未だに消えない。

その後、就職することになった時、映像に関わる仕事を選んだのも、あの映画に出会ったこと起因している。結局その時からずっと、時間と空間の迷宮から抜け出さず今に至っている。



# 今後の五輪像とは 山口教授に聞く 「五輪の特別さ問われている」



本紙の単独取材に応じた山口教授＝本人提供

【一面参照】東京五輪の延期が決まってから約2カ月。新型コロナウイルスの感染は全世界に拡大し、アスリートの置かれた状況はより厳しさを増した。1年後の開催を危ぶむ声すら上がる。開催国である日本オリンピック委員会（JOC）の理事としては初めて五輪延期を訴えた山口香教授（体育学）に、延期に伴う懸念点や、今後の五輪像について聞いた。一問一答は以下の通り。

五輪の延期で、選手がコンディショニングを合わせづらくするのは、トップアスリートは、けがや病気を防ぐトレーニングが計画が崩れることが想定内としてトレーニングを積

んでいる。しかし、数カ月間という長い間、選手が十分にトレーニングを行えない状態は異常で、来夏の五輪で最高のパフォーマンスが発揮できるように仕上げることが肉体的、精神的に

難しい。ただ、世界中の選手が似た状況下に置かれている。今できるトレーニングを行い、可能な限り良い状態で五輪を迎えられるように調整するしかない。選手はみんな「今できることをやろう」と考えているのではない。

感染拡大後も、五輪開催の延期を言い出せない雰囲気があったのでは。招致以来、今年7月開催に向けて努力してきた中で、延期に言及すると、これまでの活動や努力が無くなってしまつてはないかという抵抗感があった。だが、これまで頑張ってきたことと、直面している現実とは別物だ。山登りに例えれば、頂上を目指して天候が悪化し、強行するか引き返すかの決断を迫られることと同じだと思う。感情に流されず、冷静な判断をすることが必要だ。

## 体育施設利用停止 部活動も自粛

新型コロナウイルスの感染拡大で、筑波大の多くの運動部の活動も自粛した。4月4日に中央体育館や陸上競技場など学内の体育施設の利用が停止され、外出までは五輪だけが持つ特別な意味がなくなり、形だけのものになってしまつた。「多額のお金をかけて開催する価値があるのか」と考えられてしまつてもいい。私たちは五輪に価値があると思つて活動してきたが、将来、五輪を開催するかは未来を生きる若者が決めるべきかと思う。図らずもコロナウイルスとの戦いが五輪の意味や価値を改めて対峙する機会となった。持続可能な五輪になるかどうかの正念場だ。

柔道部は、部員に自主練習に取り組みよう伝えた。監督は部員から練習内容の報告を受け、状況を把握しながら活動方針を検討した。

一方、蹴球部やオリエンテリング部では、オンライン通話アプリなどを活用した練習を取り入れた。蹴球部はコーチが直接お手本を見せながら、室内でそれぞれが自粛要請の内容を理解している前提のもと、個人練習などの取り組みも部員の自主性に任せた。

AD所属部活動に新人研修 オンラインで実施 筑波大アスレチックデパートメント（AD）は4月23日、所属する男女ハンドボール部、男女バレーボール部、硬式野球部の新生入生に向けた合同ミーティングを開催した。

AD副部長は、新生入生は「安全で健全に成長できる環境づくりを目指す。大学スポーツの『健全化』や、地域貢献などを通してスポーツの価値の『最大化』を目指すADの役割を紹介した。また、新生入生に「アスリートである前に学生である」と強調し、文武両道を目指す姿勢を求めた。

## 「本番まで精一杯頑張りたい」

### パラカヌー内定・瀬立 大会延期で復学

東京パラリンピックの代表に内定しているパラカヌーの瀬立モモカ（体専4年）が、今年4月に復学した。当初は、昨年4月から今年のパラリンピック本番まで休学を予定していた。しかし、同大会の1年延期が決まり、時間があるうちに大学で学びたいと復学を早めた。本紙の取材に瀬立は「延期決定直後から2週間、モチベーションを保

つことが難しかった。だが、今は、パラリンピックに向けて、目標が明確になりつつある。本番まで精一杯頑張りたい」と語った。

復学した現在も同村に滞在し、日々の大学の授業にはオンラインで参加している。新型コロナウイルスの影響で4月から5月にかけては練習場がほぼ閉鎖されたため、「筋トレを中心にトレーニングを積み、競技と向き合った」と話す。休学中は同村のほか、国内トップレベル競技者の強化拠点となるナショナルトレーニングセンターの本場



水上練習中に笑顔を見せる瀬立＝本人提供

湖カヌー競技場（石川県小松市）などでもトレーニングを積んだ。「水上の練習場所が確保されているなど環境が整っており、（新型コロナウイルスの感染拡大までは）練習に集中できた」と語った。

一方で、大学の環境の素晴らしさにも気づいた。（大学は）トレーニング学

## スポーツの顔

### テニス

一昨年のインターハイ女子シングルスで優勝。昨年度の大学対抗王座決定試合では、女子硬式テニス部のエースとして単複両方の試合に出場し、筑波大初の日本一に貢献した。



全日本選手権 ベスト16 阿部 宏美 (体専2年)

「元々、集中すべき場面と、そうでない場面での気持ちの切り替えが無意識にできる」と話す。試合時間が長

くても、ここぞという時の集中力を切らさない。また、ミスした時や追い込まれたときも、それを表情や態度に出さない。「ラケットを投げるなど

自分で戦術考え挑戦続ける バネに自主練習を毎日するようになった。部活動以外でも早朝に一人でボールを打つなど平日は毎日4時間、土日は8時間練習した。高校2年でインターハイ4強、3年

比較文化学類2年 写真 は本人提供



# 新型コロナが脅かす学生生活

## 就活、健康、学業……本紙調査で判明

本紙は5月5～10日にウェブ上で「新型コロナウイルスによる筑波大生への影響調査」を実施し、新入生213人、在學生775人、計988人から回答を得た。その結果、収入や学業、健康などさまざまな面で筑波大生が影響を受けている実情が浮かんできた。学生生活課の担当者は「悩みがあれば一人で抱えず、大学の総合相談窓口や保健管理センターなどに相談してほしい」と話した。(後藤佳佳、大和祐葉)

### 授業料の支払いが困難に

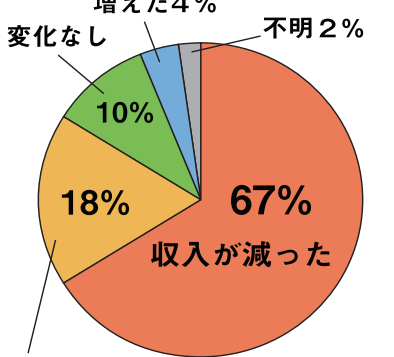
授業料支払いについての設問では、在學生の6% (45人)、新入生の5% (10人)が「新型コロナウイルスの影響で支払いに困難が生じている」と回答。また、アルバイト収入が減ったとの答えは在學生の67% (517人)に上った。

学群4年のAさんは、飲食店を経営する親の収入が半分以下になったという。授業料の半額免除と、月4万5000円の貸与型奨学金を受けているが、今後家計が急変した学生向けの給付型奨学金を申請する。Aさんは本紙の取材に対し「アルバイト収入が減った」と回答。また、アルバイト収入がなくなったとの答えは在學生の67% (517人)に上った。

学群4年のBさんは、アルバイト収入がなくなった。アルバイト収入がなくなったとの答えは在學生の67% (517人)に上った。

学群4年のCさんは、卒業研究の主な対象が図書館から持ち出しができた「禁帯出資料」で、4月

### アルバイト収入の変化 (在學生)



アルバイトはしていない (回答者数は在學生 775人、四捨五入のため合計は必ずしも100にならない)

「就活不安」約半数 先行き不透明で 合同企業説明会の中止や面接の日程を延期する企業が相次ぐなど、新型コロナウイルスの感染拡大が学生の就職活動(就活)にも影響を及ぼしている。

就活情報会社「マイナビ」が今年3月、2021年春卒業予定の学生約2000人を対象にウェブ上で行った学生就職モニター調査では、先輩と比べ自分たちの就活が「厳しくなる」と回答した学生が83.8%に達し、前年同期比で61.6%増えた。

本紙アンケートの就活に関する設問でも、回答者の約半数が「新型コロナウイルスによる景気の悪化で就活が厳しくなるのではないかと不安だ」との答えを選んだ。また、約2割が参加予定だった説明会やインターンが中止になり、就活の見通しが不透明になったと答えた。

就活相談会や就活イベントを企画・運営する筑波大学の学生団体「エンカレッジ筑波」には、「オンラインでの就活に適應できるか」「採用人数の減少が心配だ」などの相談が、例年より多く寄せられている。5月9日時点で372人の申し込み

があり、うち299人の相談に応じた。相談実施人数は昨年同時期に比べ約4倍に上った。

相談者が急増した理由について代表の藤井未来さん(生資科2年)は「就活の早期化・長期化に伴い、早から就活に関心を持つ学生が多くなったことも考えられる。しかし、新型コロナウイルスの影響で、就活の見通しや景気の悪化に不安を覚える学生が増えたことが大きいのではないかと話した。

一方、学生から就職課への4月の相談件数は313件で、昨年4月の446件から約3割減少した。就職課では4月1日以降対面の相談を中止し、オンラインや電話での対応に切り替えた。同課によれば、例年のように学内掲示をしても学生が見られないことや、

「聞かなくていい」と話した。この文書は、同センターの各部署領域の専門スタッフが、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

「聞かなくていい」と話した。この文書は、同センターの各部署領域の専門スタッフが、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

### 卒業研究にも影響

卒業研究に関する「予定通り研究(卒業研究など)が進められるか」不安だと答えた在學生は307人(40%)だった。応用理工学類の4年生からは「研究室に入れないため、卒業論文に必要な実験が進められず困っている」という声が寄せられた。

学群4年のCさんは、卒業研究の主な対象が図書館から持ち出しができた「禁帯出資料」で、4月

「聞かなくていい」と話した。この文書は、同センターの各部署領域の専門スタッフが、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

「聞かなくていい」と話した。この文書は、同センターの各部署領域の専門スタッフが、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

「聞かなくていい」と話した。この文書は、同センターの各部署領域の専門スタッフが、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

「聞かなくていい」と話した。この文書は、同センターの各部署領域の専門スタッフが、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

「聞かなくていい」と話した。この文書は、同センターの各部署領域の専門スタッフが、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

### 外出自粛でうつ病悪化も

現在の健康状態や精神状態などに関する設問では、全回答者の70%(687人)の学生が「運動不足」と答え、「生活リズムが乱

れいている」との回答も49%(403人)に上った。また、「恐怖や不安を感じる」と答えた学生は215人(22%)、周囲の状況が他人事のように感じられるが17% (166人)、「疎外されている」と強く感じるが9%(88人)など、不安や疎外感を感じる学生が少なくないことが分かった。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

## 障害学生 学びやすく

### 遠隔授業の指針発表 DACセンター

筑波大ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(DACセンター)は4月8日、「障害のある学生の受講を想定した遠隔授業の対応について」を発表した。障害学生がオンライン授業を受講する際に生じやすい課題と対処法を、教員向けの指針としてまとめている。発達障害学生の支援を担当する中島範子アセツサー(DACセンター)は「障害学生だけでなく全ての学生にとって学びやすい授業づくりをする『学びのユニバーサルデザイン』の考え方が広まってほしい」と話した。

この文書は、同センターの各部署領域の専門スタッフが、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

Dさん(生物3年)は、生活リズムの乱れや、友人などに会えないストレスから、うつ病の症状が悪化したという。また、オンライン授業に伴って課題の提出が増え、毎週約10本のレポートを作成しなければならぬことや、以前から通っていた保健管理センターの対面での相談が難しくなっていること、精神面の不調につながっていると感じている。

### 編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が社会全体に広がっています。いまだ収束までは見通せていません。筑波大は「新型コロナウイルス禍が続く中で、失われつつある日常」は失われつつあります。一方、これらに対応する中で、前例踏襲で今まで続けられ、形骸化していた慣習などを見直す機会にもなりました。▼収束後の世界はどのようなものになっているのでしょうか。その「答え」は今を生きる全ての人からコロナ禍を生き抜く中で見つけなければならぬものではないでしょうか。(編集長・西村大祐 2020年5月13日現在)

筑波大の運動部やサークルの代表者が、YouTubeで新入生向けに団体を紹介するオンライン新歓祭が4月24・26日に開かれ、初日の昼の部は約200人がライブ配信を視聴。YouTubeにアップされた3日分の動画の再生回数は5月13日時点で合計約1万4000回に上った。

オンライン新歓祭を企画した同支部のキムユンテさん(社工3年)は「新入生にとって新歓は、サークル選びや友達が作れる貴重な機会。少しでも筑波大の雰囲気を知り、楽しんでおらうと企画した。想像以上に多くの方が参加してくれてうれしい」と話した。(後藤佳佳)

次号は 7月13日(月) 発行予定です

### 編集・発行

■筑波大学新聞編集委員会  
 ▼委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) 社会学系  
 ▼副委員長 佐藤勲(学生部長) 社会学系  
 ▼委員 菅谷純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学、竹中佳彦(人文社会学系・教授) 政治学

■筑波大学新聞編集部  
 ▼編集代表 嶋田田公男(筑波大学・教授) サイエンスコミュニケーション  
 ▼編集長 西村大祐(人文社会学系3年) 社会学系  
 ▼副編集長 後藤佳佳(社会学系3年) 社会学系  
 ▼加藤優花(国際総合学類3年) 社会学系  
 ほか編集部員9人

発行所 筑波大学  
 印刷 ヒラマ写真製版

発行所 筑波大学  
 印刷 ヒラマ写真製版